

令和5年（2023年）度行政評価シート【個表】

令和 5 年 6 月 23 日

評価対象事業		評価者	障害福祉課長 鷲尾 礼弁	
健福-36	障害者社会参加促進事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	障害福祉課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針	多様性のある福祉サービスの充実

1 事業の目的

対象	障害者等
意図	在宅の障害者等の社会参加及び外出を支援するため。
効果	障害者等の社会参加の促進を図る。

2 令和4年(2022年)度実施した事業の概要

- ・聴覚障害者等からの依頼により、手話通訳者等を派遣し、聴覚障害者等の情報保障を図った。
- ・市のパンフレットの点字版を作成するなど、視覚障害者、聴覚障害者等の情報取得手段の確保を図った。
- ・手話通訳支援員を週5日窓口に配置した。
- ・手話講習会(入門、基礎、中級、上級講座等)を開催した。
- ・障害者が自ら運転する自動車を改造する場合の自動車改造費助成を行った。
- ・在宅の重度障害者に福祉タクシー利用券・福祉自動車燃料費助成券等を交付し、利用料等の助成を行うことで社会参加の促進を図った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

7	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和4年度		令和5年度	達成度
				指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)		指標(目標値) 予算額(千円)	
01	手話通訳者等派遣事業	手話通訳者等派遣等報償費、業務委託、費用弁償等	手話通訳者・要約筆記者の派遣件数(件)	251 / 250	250	250	100.40%
02	手話講習会等開催事業	手話講習会等開催業務委託	手話講習会等修了者数(人)	55 / 60	60	60	91.67%
03	障害児者福祉イベント開催事業	障害児者福祉イベント開催負担金	イベント参加者数(人)	- / -	-	2,000	
04	自動車改造費等助成事業	身体障害者自動車改造費助成費	身体障害者自動車改造費助成件数(件)	4 / 4	4	4	100.00%
05	障害者タクシー料、自動車燃料費等助成事業	障害者タクシー券等事務手数料、印刷製本費	福祉タクシー券利用率・自動車燃料券利用率(利用者数/交付枚数)(%)	56%/86% / 100%/100%	100%/100%	100%/100%	56%/86%
06	情報保障(点字)事業	点字版等作成委託 視覚障害者用PC・ソフトウェア一式	-	- / -	-	-	
07	一般事務経費	消耗品費、緊急通報装置維持修繕料	-	- / -	-	-	
08				/			
09				/			
10				/			
財源内訳				1,678 / 4,450	3,947		
国県支出金				/			
地方債				/			
その他特定財源				/			
一般財源				31,863 / 38,292	36,630		
事業費の合計(千円)				33,541 / 42,742	40,577		
人件費(千円)				19,961	15,331		

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	2.0	2.2	2.2	1.3		
会計年度任用職員	2.0	2.0	2.5	4.0		

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	手話通訳者等派遣事業	当事業は利用者からの申請に基づき、手話通訳者等の派遣調整を行う事務のため、利用者側の状況に左右されるものの、当初、市民からの派遣要望を想定した目標値と同程度の派遣件数となり、聴覚障害者の情報保障の一助となったものと考えられる。	聴覚障害者の生活に必要な様々な場面でコミュニケーション支援をすることは、重要な事業である。	事業を継続する。
02	手話講習会等開催事業	講習会修了人数は55名と目標比91%と未達であったが、昨年の講習会修了人数(30名)と比較すると183%増となっている。令和4年度の手話通訳者等の認定試験を合格した者が、手話通訳者1名、要約筆記手書き3名、パソコン4名と継続して開催した効果が表れてきている。	聴覚障害者が社会に参加するため、手話の普及を図り、通訳者を増やすことは、重要な事業である。	神奈川県認定試験合格の難易度が高く、手話通訳者及び要約筆記者を増やすことが難しい。また、講習会修了後、継続して学ぶ機会の提供が行えておらず、希望者に対する細やかなフォローが行える体制作りが求められる。
03	障害児者福祉イベント開催事業	当初、ふれあいフェスティバルへの参加者数に係る指標の設定を想定したが、令和2年度から4年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催を見送ったため、指標の設定ができなかった。令和5年度については、市民協働事業として、新たに「障害児者イベント」を開催するため、同イベントへの参加者数を新たに指標として設定する。まずは多くの参加者を得ることで、支援の拡大につなげていく。	障害児者との交流、市民への啓発の機会となる必要性が認められる事業である。	令和5年度についても、ふれあいフェスティバルの開催は見送るが、市民協働事業として、新たに「障害児者イベント」を開催する。
04	自動車改造費等助成事業	障害者が自ら運転する自動車の改造費等への助成は、利用者側からの申請によるものであるため、目標設定にはなじまない一面もあるが、令和4年度は目標4件に対して4件の申請を受けて助成を行った。当事業が、障害者の社会参加の一助となっているものと考えられる。	障害があっても自分で車を運転したい障害者の自立及び社会参加を支援する重要な事業である。	事業を継続する。
05	障害者タクシー料、自動車燃料費等助成事業	利用率は、年々減少傾向となっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、外出控えや外出時に自家用車を利用したことが一因ではないかと考える。	障害者の社会参加及び外出機会を増やすため、必要な事業である。	利用者の利便性向上のために契約事業者数の増加が課題となっている。
06	情報保障(点字)事業	条例に基づき、障害者のニーズに即して、その都度、点字版等を作成するもので、指標の設定には適さない。	視覚障害者の社会参加のニーズは引き続きあり、事業を実施していく必要がある。	新条例制定に伴う予算の確保等が課題である。
07	一般事務経費	消耗品費などの共通的な経費で指標の設定には適さない。	-	-
08				
09				
10				

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない	
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み	
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない	
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある	
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している	
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である	
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
協働		協働実施済の場合のパートナー	「TEAM HINATA」 手話講習会実行委員会 要約筆記講習会実行委員会

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 改善・変更	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
この事業は、聴覚障害者へのコミュニケーション支援や、タクシー券支給などの各種制度により、障害児者の社会参加を支援しているものである。今後も現行制度の維持に努め、障害者の社会参加を支援していく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	手話通訳者・要約筆記者の派遣件数						単位	回
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
障害者等の社会参加及び外出支援の促進を図るため。	目標値		250	250	250			
	実績値	171	174	251				
	達成率							

指標(単位)	障害者福祉タクシー券利用率(利用枚数/交付枚数)						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
障害者等の社会参加及び外出支援の促進を図るため。	目標値		100	100	100			
	実績値	63.4	58.4	56.0				
	達成率							

指標(単位)	障害児者福祉イベントの参加者数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
障害児者との交流、市民への啓発の機会とするため。	目標値				2,000			
	実績値							
	達成率							

指標(単位)	障害者福祉自動車燃料券利用率(利用枚数/交付枚数)						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
障害者等の社会参加及び外出支援の促進を図るため。	目標値		100	100	100			
	実績値	96.5	87.7	86.0				
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	福祉タクシー利用券等支給額(金額×枚数)							
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	逗子市	横須賀市	
タクシー券	24,000円	28,800円	24,000円	21,600円	48枚×初乗運賃分	未実施	21,600円	
ガソリン券	18,000円	未実施	24,000円	未実施	未実施	未実施	21,600円	

比較事項	手話通訳者の窓口設置状況							
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	逗子市	横須賀市	
他市実績	週5日 8時30分～17時	週5日 8時30分～17時	週5日 9時～16時	週5日 8時30分～17時	週5日 8時30分～17時15分	週5日 8時30分～17時	週5日 8時30分～17時15分	

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	福祉タクシー利用券は多くの近隣市で実施をしているが、自動車燃料費助成券は未実施の近隣市もある。本市では自動車燃料費助成券の利用率が86%と高く、障害児者の社会参加促進や外出支援に対する選択肢を広げ提供ができている。 手話通訳支援員の窓口設置については、平成30年度の設置時間は半日であったが、令和元年度には設置時間を拡充し、他市と同等の設置となった。また、令和2年度から月15日以内勤務の会計年度任用職員2名が勤務する体制とし、今後も継続していく。
--------------------------	---